

Kendai [秋田県立大学広報誌]

イスタ

Akita Prefectural University

VOL.19

2016

特集

図書館 &
ラーニング・コモンズによるこそ

Contents

01 News&Topics

03 図書館&ラーニング・コモンズ
によるこそ

07 瞬間風速

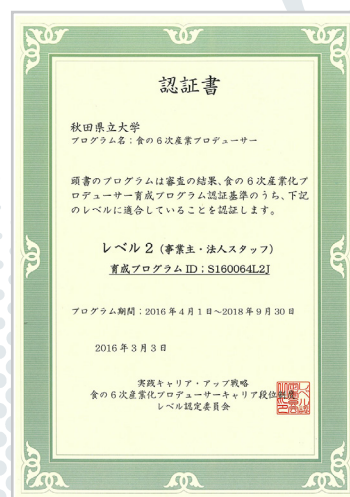
「食の6次産業化プロデューサー」 育成プログラムの認証を取得しました

News&Topics

生物資源科学部では、昨今の地方創生や若者の地域定着促進を目指す方向性に呼応して、6次産業化に関する知識・技能と意欲を持つ人材育成を目指して「食の6次産業化プロデューサー」育成プログラムを準備しておりましたが、このたび、本学のプログラムが定められた基準を満たすとして、運営法人である一般社団法人食農共創プロデューサーズより教育研修機関として認証されました。具体的には、本学学生がこのプログラム科目を修得して上記法人に申請し認定を受けることで、レベル1~2の段位を取得できます。

本学の育成プログラムからたくさんの優秀な人材が育ち、秋田県はもとより全国や世界の6次産業で活躍することを願って、今後もコースの充実に努めてまいります。

※「食の6次産業化プロデューサー」の概要については、一般社団法人食農共創プロデューサーズが運営するホームページ (<https://www.6ji-biz.org/>) も御参照ください。



News&Topics



オープンキャンパス 2016 を開催しました

7月18日にシステム科学技術学部、7月24日に生物資源科学部のオープンキャンパスを開催しました。両日も猛暑であったにもかかわらず、全国各地から合計で800名を越える方にご来場いただき、会場は文字通り熱気に包まれました。

当日は在学生在が学内の各施設を案内する学内見学ツアーや、大学の授業を実際に体験できる模擬講義が好評でした。また、直接本学の教員から入試制度や入学後の学びについて聞くことができる進学相談や、実演を交えたサークル紹介、無料昼食券によるカフェテリア体験などを通じて学生生活を肌で感じていただけたのではないのでしょうか。

秋田県知事との意見交換会に 学生が参加しました

News&Topics

7月22日に、秋田地域振興局による「知事と県民の意見交換会」が開催され、本学からは4名の学生が参加しました。これは、「超高齢・人口減社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」について、秋田県内の各国公立大学から参加した10名の学生と佐竹敬久秋田県知事が意見交換するために開催されたものです。

参加した学生からは、サークル等で活動している県内各地での地域おこしの取り組みを紹介しながら、若者の地元定着に向けた方策について活発な意見が出されました。本学の学生からも「起業したいと思っている若者に対して、行政からもっと援助して欲しい」「進学等で県外から秋田に来た若者に、出会いの場がもっとあれば県内定着が促進されると思う」といった意見が出されました。



航空産業ロボット化競技の 世界選抜大会に参加しました

5月17日～18日にシステム科学技術学部の教員と学生からなるチームが、スウェーデンのストックホルムで開催された航空産業ロボット化競技“Airbus Shopfloor Challenge 2016”に世界各地から7チーム選抜されたうちの1つ“Team Akita”として参加し、先進的なロボット技術を披露しました。

競技課題は航空機を模したアルミ合金板を対象に、255箇所の指定位置へのドリル穴開け作業を、1時間以内に、かつ精度良く達成するというもので、板やその角度の認識は自動化することも求められました。

本学のCaladriusはスチュワート型と呼ばれる産業ロボットで、2月に公開した雪下ろしロボットにも用いた数メートルに及び伸縮機構（国際特許）を応用したロボットです。4月始めに選抜通知を受けてから、チームの総力を挙げてロボットの準備を進めました。残念ながら時間が足りず、現地での最初の関門で動作不十分として敗退することになりましたが、引き続き会場にて実働デモを行い、来場者の注目を集めました。



ゆり支援学校で科学教室を実施しました

8月2日、秋田県ゆり支援学校の生徒と保護者の皆さんを対象に、システム科学技術学部の教員4名と学生3名で「わくわく科学教室」と題した科学教室を開催しました。

当日は「風船のふしぎ」と「ペットボトルロケットの打ち上げ」の2つのテーマを実施しました。「風船のふしぎ」では、先生の持っている風船が下に落ちていくものと上に浮かんでいくものがあることを見てもらい、なぜそうなるのかを考えてもらいました。また、水槽に色々な野菜や果物、文房具などを落としてみて、どれが浮かぶか、どれが沈むかを予想してもらいました。「ペットボトルロケットの打ち上げ」では、用意した3つのペットボトルロケットに、生徒の皆さんが順番に水を入れ、空気を入れていくことでペットボトルが空高く舞い上がっていくのを、楽しそうに何度も何度も行っていました。

参加したボランティアスタッフの学生も、ペットボトルに入れる水の分量を生徒の皆さんと一緒に考えたり、空気を入れる作業を手伝ったりして、教えることの楽しさを学ぶことができたようです。



鳥海山登山を実施しました

晴天に恵まれた8月8日、本荘キャンパスの学生企画支援ワーキンググループの活動の一環として、鳥海山登山を実施しました。鳥海山登山は、これまでたびたび企画していましたが、その都度悪天候のため中止となってしまう、今回5年越しようやく実現しました。当日は秋田キャンパスと本荘キャンパスの学生合わせて31名と教員3名、登山ガイド3名の計37名が、矢島ルートで標高2229mの七高山頂を目指しました。

ところどころ険しい道のりがありましたが、力を合わせ全員で登頂に成功しました。山頂での休憩時には、各々が目の覚めるような青空の下、美しい景色を楽しみました。また、学生同士キャンパス間の垣根を越えて交流を深める事ができ、貴重な経験となったようです。



Akita Prefectural University

図書館 & ラーニング・コモンズに ようこそ

秋 田 県 立 大 学 図 書 館 の 概 要

秋田県立大学の図書館は、1999年（平成11年）に開館し、本学の教育と研究を開学以来支えてきました。本学の歩みとともに収集された数多くの資料は、大学での高度な学修や研究に欠かせない重要な役割を担っています。また、従来から図書館に求められている自己研鑽の場であることはもちろんのこと、近年は「グループ学修室」や「ラーニング・コモンズ」を整備するなど、他者とのディスカッションを通じて新たな知と出会い、発見する場としての役割も果たしています。

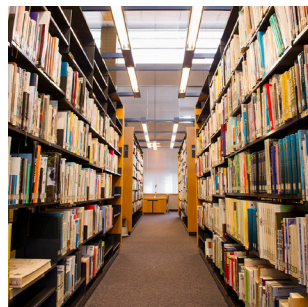
本学の図書館全体の蔵書数は約26万冊に達します。その情報はすべてデータベース化されていて、インターネット経由で利用できる蔵書検索システム「OPAC」で瞬時に検索することができます。また、本学で所蔵していない資料については、秋田県立図書館や国立国会図書館を始めとする他の図書館から借用することもできます。

本学の図書館は、学外の方にもご利用いただくことができます。日頃から多くの近隣住民の方々が各キャンパスの図書館を訪れていて、資料の閲覧等にご利用いただいております。



1 閲覧席

275席ある閲覧席は、図書の閲覧や自主学修に使用できるほか、学内LANに接続できる席もあります。



本 庄キャンパス図書館は、共通施設棟の3階に位置しており、開放感のある高い天井、配色、照明、書架や机の配置など細部にもこだわった居心地の良い空間となっています。主にシステム科学技術学部・研究科の授業や研究に有用な資料を収集していて、蔵書数は約11万冊です。275席の閲覧席では、図書の閲覧や自主学修、情報コンセントへの接続による学内LANの使用ができるほか、AVコーナーでは、DVD資料などの視聴ができます。4室あるグループ学修室では、大型テレビ・コピーボード・プロジェクタ・モバイルスクリーンなどを用いて、グループディスカッションやゼミ発表、プレゼンテーション練習などに利用するこ

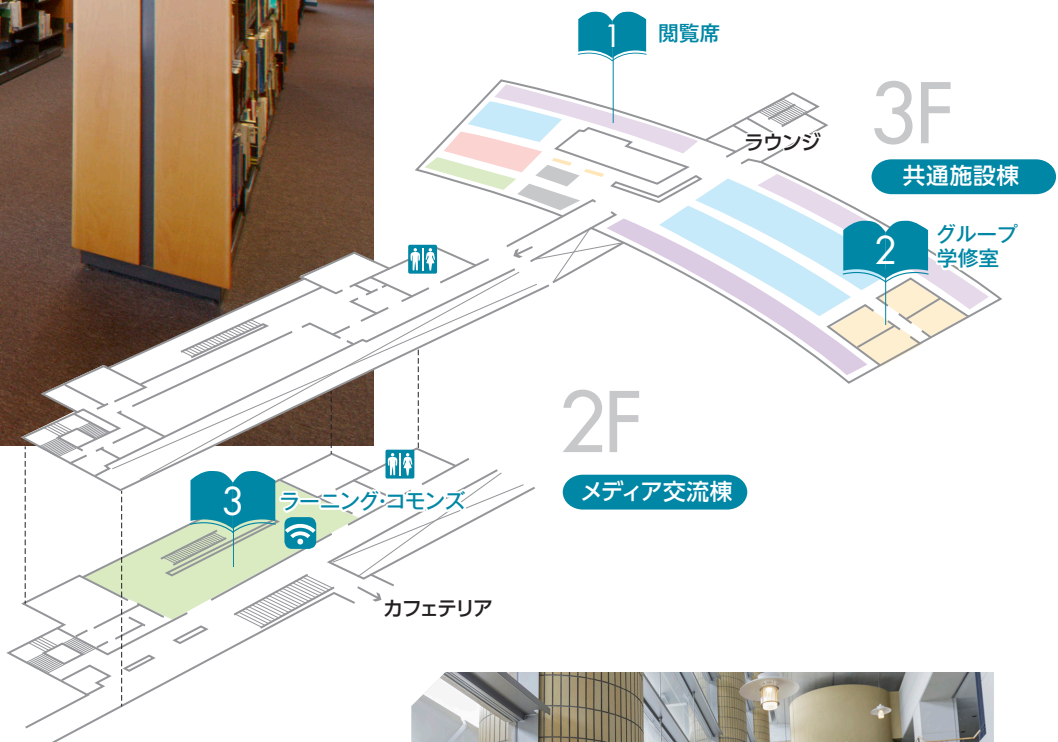


本荘キャンパス図書館



2 グループ学修室

4室あるグループ学修室には、コピーボード、プロジェクタ、モバイルスクリーン等が設置されていて、ゼミ発表やグループディスカッション等に利用できます。



ともできます。メディア交流棟2階のラーニング・commonsは、Wi-Fiスポットが整備されていて、学生が自由にインターネット環境を利用できることに加え、ラーニング・commons内は飲食可能にするなど、気軽に施設を利用できるように工夫しています。また、ホワイトボードやプロジェクタを利用して、イベントやプレゼンテーションを行うなど、議論しながら学修を進めることができるほか、ラーニング・commons内には、ピアチューター（学修支援員）の学生が、数学や物理の質問に対応する「数学・物理駆け込み寺」が開設されていて、学生同士がお互いを高め合える環境になっています。



3 ラーニング・commons

可動式のテーブルやホワイトボードを自由に配置して、プレゼンテーションやグループワークを行うなど、自由な議論が展開できる空間です。

Akita Prefectural University
図書館 &
ラーニング・コモンズに
 ようこそ



1 ラーニング・コモンズ

可動式のテーブルやホワイトボードを自由に配置して、プレゼンテーションやグループワークを行うなど、自由な議論が展開できる空間です。



3 個人閲覧ブース

壁で仕切られた一人用の閲覧室で、集中して学修や研究に取り組むことができます。



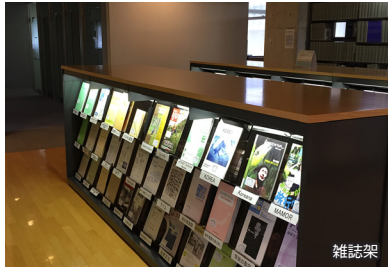
4 グループ学修室

4室あるグループ学修室には、大型テレビやプロジェクタ等が設置されていて、複数人でのDVD鑑賞やグループディスカッション等に利用できます。

秋田キャンパス図書館



書架

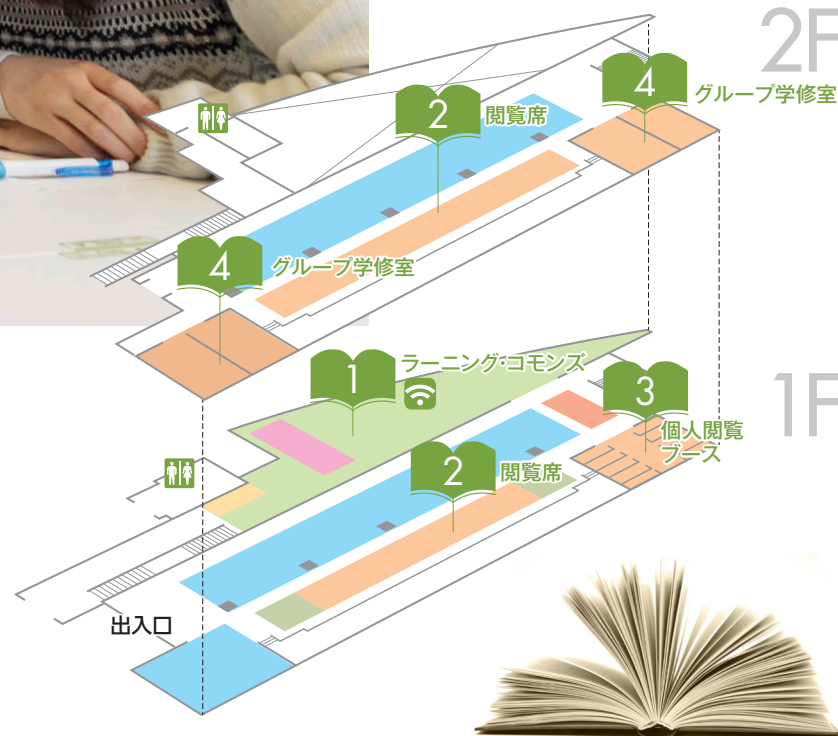


雑誌架



2 閲覧席

300席ある閲覧席は、専門書から文学まで幅広いジャンルが揃っている館内の図書の閲覧や、自主学修に使用することができます。



秋田キャンパス図書館は、図書・メディア・講堂施設棟の1階と2階に位置しており、ガラス張り吹き抜けによる近代的な造りで、明るく開放的な空間となっています。主に生物資源科学部・研究科の授業や研究に有用な資料を収集していて、蔵書数は約9万冊です。300席の閲覧席の他に、壁で仕切られた個人閲覧ブースが設けられていて、集中して学修や研究に取り組むことができるほか、本荘キャンパス図書館と同様、AVコーナーやグループ学修室も利用することができます。また、図書館の1階に位置するラーニング・commonsでは、可動式のテーブル、ボックス席や間仕切りを兼ねたホワイトボード等を配置することで、様々な形態のグループワークをすることができます。さらにソファで新聞や雑誌を読みながらリラックスできるエリアや、インターネットを用いた情報収集のためにWi-Fiスポットも整備されています。

大潟キャンパス図書館 木材高度加工研究所図書室

大潟キャンパスと木材高度加工研究所の図書館にも、それぞれのキャンパスの教育や研究に有用な資料が所蔵されているほか、閲覧席では資料の閲覧や自主学修をすることができます。



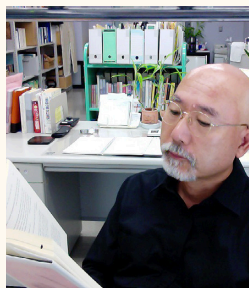
大潟キャンパス図書館



木材高度加工研究所図書室

瞬間風速

毎号テーマに沿って、大学に携わる人の“瞬間”をお届けするコラム。
今回のテーマは「お勧めの一冊」。



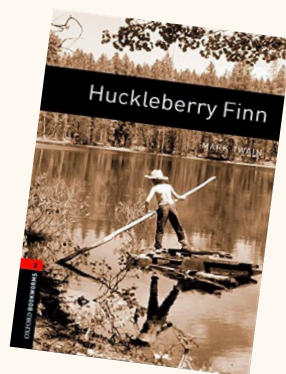
総合科学教育研究センター

高橋 守 教授

ハックルベリー・フィンを英語で読んでみないか

この文章は、Mark Twainの書いたAdventures of Huckleberry Finnが多読用（多読の意味については後述）に書き直されたHuckleberry Finn (Oxford Bookworms Library, Stage 2) という本を、読んでみようよというお誘いである。若い人たちには、この本を読んだ後に振り返って主人公のハックの内面的変化について考えてほしいと思う。最初、ハックは自分のためだけに川下りを始める。だが途中でジムと合流し、ジムが連れ去られてからは、危険を冒してジムを助けに行く。この最初と最後の間のどこかに、ハックが自分中心に生きていた時期と、危険を冒してまで人のために生きるようになった時期の転換点があるはずである。どこで内面的に変化するか？ 答えは読んで見つけてほしい。

英文多読は、原則的に1分間に100語から200語の速度で読むことなので、6180語のこの本は、30分から1時間で読むべきものである。多読は英語力の向上に大変効果がある。英文の多読とは何か？ ある先生にこの質問をしたら、「沢山読むことでしょ？」という返事が返ってきて笑ってしまった。正解は、易しい本を、楽しく、速く読むことである。多読を毎日継続すれば、必ず英語ができるようになる。多読をするには、自分の実際の英語レベルよりも数段低いものから始めなくてはいけない。知らない単語が多く出てくると、読むという行為ではなくて、暗号解読という行為になってしまうからである。もしもこの速度で読めないならば、ためらわずにこの本よりも二段階下のStarterレベルの本から読み始めるべきである。

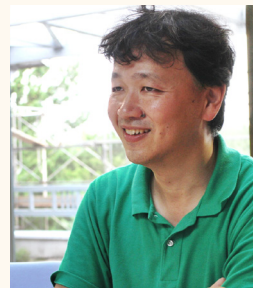


神様の御用人 (1~6) 浅葉 なつ

今回、実は色々迷ったのですが、「あまり読書の習慣がない方でも手に取りやすい本」という観点でこちらの本を選ばせていただきました。

作者の浅葉なつ氏は、2011年に「空をサカナが泳ぐ頃」でデビュー、内容はともかく、そのパワフルな文章に注目していた作家さんで、その5作品目として発行されたのが本書『神様の御用人』です。この物語の世界の中の神様は、神様に感謝を捧げず自分勝手な願い事ばかりする人間が増えたことによってその力が弱まり、自分の力では解決できない様々な悩み・願いを抱えています。そんな神様の御用聞き役（御用人）に選ばれた主人公と、神を見ることができるとも成長していく姿が描かれていきます。「心の中で涙を流している友人を力づけたい」、「大切な人を守りたい」、「自分が感謝されていることを実感したい」、「出会った頃の様に語り合いたい」、「自分の存在を忘れないで欲しい」といった、人が年齢を重ねていく中で心の中に抱いても口には出しにくい願望にまつわる話を、「(とてもユーモラスな)神様の願いをかなえる」という形で表現することにより、肩の力を抜いて読むことができる作品になっています。

読書というと高尚な文学作品を読まなければならないと思われがちですが、そのようなことはありません。読書の苦手な方は、まず肩肘をはらずに読める本書のような作品から初めてみてはいかがでしょうか。



木材高度加工研究所
岡崎 泰男 准教授

Kendai [秋田県立大学広報誌]

イスタ
Akita Prefectural University

「イスタ」というタイトルは、「良いですね」という意味の秋田弁をベースにしています。これからも人材育成・研究開発を通して、地域社会の発展に貢献できるような「良い」ことを発信していきます。

Akita Prefectural University
秋田県立大学

<http://www.akita-pu.ac.jp/>

E-mail: koho_akita@akita-pu.ac.jp

twitter: @Akita_P_U



秋田キャンパス ◆本部◆生物資源科学部◆大学院/生物資源科学研究科
〒010-0195 秋田県秋田市下新城中新野字街道端西241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670

本荘キャンパス ◆システム科学技術学部◆大学院/システム科学技術研究科
〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180

大湯キャンパス ◆生物資源科学部(アグリビジネス学科)3・4年次
〒010-0444 秋田県秋田郡大湯村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377

木材高度加工研究所
〒016-0876 秋田県能代市字海詠坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924